

福岡県立若松高等学校同窓会 磯 陵 会 通 信

創刊号

発行所
若松高等学校同窓会
北九州市若松区上原町15番1号
福岡県立若松高等学校内
URL <https://rekiryokai.com/>

発行 磯 陵 会
会長 玉 井 行 人
編集責任者 富 田 孝 司
印刷 佐 野 印

発行日
2025年(令和7年)3月1日

**第110回同窓会総会
のお知らせ**
(35期・昭和59年卒担当)

日時：令和7年
10月11日(土)
午後5時開会

場所：リーガロイヤル
ホテル小倉
3F エンパイヤルム
小倉北区浅野
2丁目14番2号

会費：7,000円



ご挨拶
会長
玉井 行人
(高27)

昨年十月の第一〇九回若松
高校同窓会総会にご参加いた
だいた同窓生の皆さま、誠に
ありがとうございました。

これまで総会会場は本校体
育館でしたが、今回初めてJ
R小倉駅近くのホテル開催と
なり、県内外から実に六百人
を超える参加があり、世代を
超えた同窓生たちが笑顔で交
流することができました。

当番期の三十四期の皆さま
の努力の賜物ですが、ホテル
初開催に加え、新しいチャレ
ンジしてもらいました。同
じ三十四期で、とんこつラー
メン専門チェーン「一蘭」代
表取締役社長、吉富学氏の特
別講演の開催と、在校生の参
加であります。

吉富氏は客の両側を衝立で
仕切った「味集中カウンター」



祝 辞
校長
吉中 禎 敏
(高35)

第七十六回卒業生の皆さん、
卒業おめでとうございます。
そして、同時に第七十六期同
窓生として、同窓会新会員と
なられました。私も校長とし
てまた同窓生の一人として、
皆さんの入会を心から歓迎い
たします。さて、現在同窓会

導入など独創的アプローチで、
商品価値を追求し、世界への
店舗展開を果たしました。そ
の原動力は、既成概念にこだ
わらない斬新な発想と、あく
なき探求心、貫徹力であるこ
とを実感させられました。

三月に若松高校を巣立つ卒
業生にも、こうした新しい分
野へのチャレンジを胸に次の
ステップに進んでもらいたい
と願います。

これからの人生は希望にも
満ちていますが、幾多の「失
敗」も待ち構えています。た
だ、「失敗」を恐れていては
可能性も生まれません。

二〇二三年春の日本の基幹
ロケットH3の初打ち上げは、
補助ロケットに点火せずに中
止されましたが、JAXA
(宇宙航空研究開発機構)は
「失敗」とは認めず、到達目
標の八段階はクリアしている
と成果を強調しました。この
姿勢に学ぶべきことは多いと
思います。

「失敗」は難局を切り拓く
糧となります。「失敗」を恐
れるあまり、新たなチャレン
ジを止めることこそ、本当の
「失敗」です。おそらく吉富
氏の到達点も、数えきれない
「失敗」の累積に裏付けられ

たものです。卒業生の皆さま
には、先輩の道程を胸に刻み、
自分にしかできないチャレンジ
ジをすることを期待していま
す。

最後になりましたが、日ご
しします。



ご挨拶
第一〇九回同窓会総会
準備委員長
中尾 正 幸
(高34)

令和六年十月十二日(土)
リーガロイヤルホテル小倉に
おいて、第一〇九回若松高校
同窓会総会を開催いたしまし
た。今までの母校体育館を離
れ初めての外部会場というこ
とで、手探りの中ゼロからの
スタートとなりましたが、皆
様の御協力のおかげで六四二
名と過去最高の参加者をお迎
えし、大盛況の中開催するこ
とができました。特に今回は、
二十代・三十代の若い世代の
参加者も多く、とても頼もし
く嬉しく感じました。

会場を埋め尽くした皆様の
笑顔、どのテーブルも思い出
話や近況報告など尽きること
のない会話に花が咲いていま
した。

今回、当番期の三十四期の
仲間も百名近く集まり、同級
生の絆の強さを再確認するこ
ともできました。

若松NEXTとその先へ、
若松高校同窓会の今後益々の
発展を祈念し準備委員長とし
ての任を終え、三十五期にバ
トンを渡したいと思えます。

総会チケットの販売、会報
誌への広告掲載等多大なる御
協力を頂きました皆様に改め
て御礼を申し上げます。本当
にありがとうございました。



第109回 同窓会総会



同窓会活動近況報告

副会長 貫野光幸(高27)

若松高校同窓会(礫陵会)は、母校に対する深い愛情を持ちながらも、卒業生の関与が少ない現状に課題を感じています。その背景には、同窓会の存在や年会費の支払いについて知らない卒業生が多い

意見を反映し、レンジの設置や、野球部の要望でプロのトレーナーを招いて体幹トレーニングを行う等を実現しました。これにより、生徒達が自ら考え、行動し、実現する喜びを感じ、母校への貢献を実感できる様に支援しています。年会費や寄付金を活用し、今後も在校生が充実した学校生活を送れるよう、礫陵会は支援を続けて参ります。

同窓会年会費の納入のお願い

2024年に我々「礫陵会」のホームページを開設致しました。懐かしいあの頃を思い出してもらえるように。今の若高がどんな感じなのかも見てもらえると。情報発信を行っていきますので、ぜひご覧下さい。

つながり。作ろう!

母校の同窓会が運営してるから安心感が違う

母校の人と繋がりを創るサイトができました!

若松高校同窓会 礫陵会 検索



「礫陵会」は、母校発展並びに在校生への支援、周年行事への資金及び会員交流の促進の事業を行うため、卒業生の年会費が重要な財源となっています。こうした財源がなければ、継続的な支援ができません。皆様には、本趣旨にご理解いただき、年会費(2,000円)の納入をお願いします。納入方法は、口座振り込み又は役員を通じて納入ください。

【口座振込の場合】

福岡ひびき信用金庫 若松支店
普通 0308362
福岡県立若松高等学校同窓会 会長
玉井 行人(たまい ゆきと)

※お振込みされる場合、氏名・卒業期をご記入下さい。

同窓会HP「礫陵会」への会員登録されていない方は、積極的な登録をお願いします。

編集後記

このたび、同窓会の会員向けの情報誌「礫陵会通信」を発行することとなった。かつて、我が母校には、新聞部による「礫陵新聞」が発行されていた。昭和二十四年から平成元年まで一七六回にわたり校内の情報を広く発信してきた歴史がある。創刊号には、当時の教育委員の有田一壽氏が、『起て、礫陵の若人』と激励のメッセージを送り、新聞の意義をたたえている。 「礫陵」という言葉は辞書にはなく、郷土の作家火野葦平氏が校歌に歌っている。葦平は校舎が立つ小石の丘の光景をみて詠んだと思う。当時の校舎の周辺には家はまばらで細かな礫が多く見られたことであろう。 また、新制高校に移行した時期に文芸部の機関紙「礫(つぶて)」に葦平が生徒へ、『うつくしき礫』と題して、よこしまの道の輩の邪をうちて光り輝くうつくしい礫とならんことを提言している。 若高の同窓生一人一人は小さな礫(つぶて)であり、礫が集まり強く団結することによって、強固な岩になるであろう。こうした同窓会になることを願ってやみません。

(T-T)

今後の日程

卒業生の皆様、卒業おめでとうございます。同窓会にご加入を歓迎します。今後の主な日程を紹介します。

- 令和七年
- 三月一日 全日制卒業式
- 三月二日 定時制卒業式
- 四月八日 全日制・定時制入学式
- 五月二十三日 常任幹事会
- 五月三十一日 創立記念日
- 六月一日 若高祭
- 六月十四日 同窓会関東支部総会
- 七月 常任幹事会
- (総会準備委員会主催)
- 九月二十七日 体育大会
- 十月十一日 第一一〇回同窓会総会